

## 国内外の貨物と陸・海・空のすべての輸送モードに対応可能



ダイワコーポレーション（本社・東京都品川区、曾根和光社長）では1日間に、JR貨物東京貨物ターミナル内に「品川営業所」（写真）を開設した。

JR貨物のFプラザ東京新C棟2

を賃借したもので、延床面積は1万8569平方メートル。東京港大井ふ頭の背後地にあり、羽田空港、京浜トラックターミナルにも近接し、国内

外の貨物と陸・海・空のすべての輸送モードに対応可能な高付加価値物流センターとなる。なお、8日に開所式が行われる。

JR貨物が大手タクシー会社向けに建設した施設を取り壊し、跡地に新たに建てた物流施設をダイワコーポレーションが借り受けた。JR貨物では同施設の賃貸借契約において「テナントが新たに鉄道コンテナ輸送を利用した場合、その個数に応じて翌年度の賃料を設定する」という新たなスキームを導入し、関連事業と鉄道事業との相乗効果を図ることとしている。

ダイワコーポレーション品川営業所は地上6階建てのボックス型倉庫（倉庫は1階と3～6階、事務所が2階）で1階部分は両面バースを採用し、ドックレベル13基を配備。エレベータ3基（3・5トントン）、乗用エレベータ（9人乗り）1基、垂直搬送機（1トントン）1基を備える。年内には災害時対応として、緊急地震速報を受信して構内に発信するための設備も導入する。

ダイワコーポレーションは都内湾岸エリアで4営業所（平和島営業所、東京城南営業所、葛西営業所、江東通販センター）を構えているが、品川営業所は既存拠点の集約ではなく新規貨物を扱う拠点との位置付け。倉庫部分5層のうち、1・2階は混載業者と共同運営し、残りは「高付加価値品」「海上貨物」「航空貨物」をターゲットにダイワコーポレーション独自の貨物を扱う予定だ。

同営業所は陸・海・空の輸送ハブが30分圏内にあり、大消費地から至近で、臨港地区にありながら24時間365日稼働が可能。東京港のコンテナ輸送車両のひつ迫を背景に、ドレージ費用が上昇している中、シヨートドレージ圏内にあるため荷主のコストダウンにも貢献。物流拠点としてのこうしたアドバンテージを武器に、JR貨物とタイアップし、鉄道輸送を絡めた荷主への共同提案も進めている。

品川営業所の片瀬寛之センター長は「これまで当社は東京、川崎、横浜を中心に営業倉庫を

展開してきたが、品川営業所は海上貨物、航空貨物を扱うには最適な拠点。輸出入貨物の荷受けから流通加工等の細かい作業までワンストップで提供したい。将来的には利用運送事業への

進出も視野に入れ、今後増加が見込まれる羽田空港発着の貨物を取り込むほか、海上・鉄道輸送を連携したスキームの構築を目指す」と話している。